

# 知っところ!!!

秋号 No.139/2024/ Autumn

## 森林組合つうしん

森だより  
(139)



写真：殿田小学校5年生との間伐体験学習と林業機械見学

も	役員人事について・・・P1, P2	店舗（森の道具屋） 椎茸研修の報告・・・P5
く	事業1課 殿小5年生環境学習・・・P3	総務課 林業振興展 他・・・P6
じ	事業2課 林大生キャップストーン研修 他・・・P4	市況・編集者の独り言・・・P7

発行責任 日吉町森林組合

〒629-0341 京都府南丹市日吉町殿田尾崎8-1

E-mail h-sinrin@fancy.ocn.ne.jp

Tel 0771-72-0017

Fax 0771-72-1375

森林組合WEBサイト

日吉町森林組合



# 役員人事変更のお知らせ

---

## 組合長辞任の報告

平素は、森林組合の業務運営に格別のご協力を賜り、ありがとうございます。また施業のご依頼や森の道具屋のご利用につきましても、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて私儀、去る 10 月末日をもって代表理事組合長の職を辞任いたしました。同月 25 日の理事会において承認され、同月末をもって辞任という運びになりました。



今年の 3 月から 2 期目に入ったばかりで日もまだ浅く、やり残した仕事如山積しているのに辞めるのは心苦しいのですが、夏前に体調を崩して秋になっても回復せず、組合長の職責を果たせなくなってしまいました。医師とも相談した結果、治療に専念すべくやむなく辞任を選択したと、こういう訳です。

思い起こせば、昭和 62 年 1 月、35 歳の時に日吉町森林組合へお世話になってから、間もなく足掛け 40 年になろうとしています。途中に、職員を定年で退職してから組合長職に就くまで 7 年間の空白があるとは言え、これまでの社会人生活の約 3/4 もの期間を日吉町森林組合にお世話になりました。その間には、当時の井尻組合長とともに皇居まで出かけて天皇杯を拝受したりテレビに出たり、提案型集約化施業推進のために講師として全国各地を巡るなど、身に余る経験をさせていただきました。これらについては、指導して下さった当時の役員ならびに懸命に働いてくれた職員、そしてご協力下さった組合員の皆様方、さらには陰に日向にと仕事に打ち込める環境を整えてくれた家族のおかげだと、深く感謝をしています。

今後は、治療に専念をして、回復したら畑仕事に挑戦するつもりであります。そして空いた時間は趣味の合気道や読書、たまには旅行やスキーも楽しめたら嬉しいなど、このように考えています。人生 100 年時代、楽しく有意義な時間を過ごしたいものです。

最後になりましたが、新たに選任された塩貝文明組合長にもこれまでと変わらぬ、いやこれまで以上のご愛顧、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、組合員の皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げて、甚だ簡単粗辞ではございますが、組合長辞任の報告とさせていただきます。

前・代表理事組合長 湯浅 勲

# 役員人事変更のお知らせ

## 組合長就任の挨拶

厳しい高温の今夏も終わりを告げ、ようやく秋らしい気候となって参りました。山々も少し色づきはじめ、11月中には山の様相もすっかり変わってくるのではないかと想像しております。

さて、組合員の皆様方におかれましてはご壮健でご機嫌よくお過ごしのこととお察しいたします。私、3年10ヶ月にわたり日吉町森林組合副組合長を務めさせていただいておりましたが、先般の理事会において第9代組合長の指名を受け過日着任させていただいたところであります。

もとより森林林業の知識は浅く、組合長に至る器ではありませんが、この上は皆様方のご理解のもと、ご支援ご協力賜り役職員とともに組合員の利益確保に向けて務めてまいる所存であります。

森林林業を取り巻く環境は木材価格の低迷、後継者不足の問題また相続問題などに端を発して所有者の山に対する関心の低下など極めて厳しい状況にありますが、これらの課題を受入れることから始め対策を行っていくことが重要と考えます。

また、森林環境税による山への新たな投資財源が確保されることとなりました。今後長期的な投資財源となることが見込まれることから積極的に予算の確保を図り、森林の整備が促進できるものと期待をしております。

微力ではありますが、日吉町森林組合の発展に精一杯の努力をしてみようことをお約束申し上げ、関係の皆様方のご理解とご支援をお願いするものであります。

結びに当たり、組合員の皆様、関係の皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ就任の挨拶とさせていただきます。



代表理事組合長 塩貝 文明

## 殿田小学校・5年生との環境教育～第3回～

森林だより 138 号でも紹介しました「殿田小学校・5年生との環境教育」ですが、10月24日(木)に第3回目を実施しました。表紙にもありますように、第3回目は間伐体験と林業機械の見学です。

現場の職員さんに小学生用として残しておいてもらった細い木を対象に、まずは仲上1課長が実演をして、木を思った方向に倒すために必要な「受け口」と「追い口」を学んでもらいました。細い木が倒れただけで「うわああ、倒れる倒れる！おおおおお！！」と、前回の薪割り同様素晴らしいリアクションの子供たちです(笑)。

さあ、3班に分かれていざ実践。倒す方向を決めて、受け口を作る。ノコギリの使い方が慣れた子、慣れていない子様々ですが、とにかく真剣。担任の先生が「待ってる子も使い方とかちゃんと見て覚えときや」って言うのと、素直にジッと見つめ、そのうち「〇〇君ノコギリ斜めになってるで」とアドバイス。素晴らしい！



みんなで交代しながら頑張り、30分程掛けてようやく受け口が完成！その受け口がポロっと取れた瞬間「よっしゃー、やったー！」と、まるで宝物を掘り当てたかのような歓声が。キワオ  
（左写真がその瞬間）しっ！

ただ、受け口を作っただけでは木は倒れません。受け口の反対側から「追い口」を入れます。伐っている子以外は木を押してサポート。「まだか？もうちょっとで伐れるんちゃう？」、「もう倒れるで！」と最後まで大騒ぎしながら見事成功！！



伐った後は、倒れた木を揺らしてみたり、シーソーにしたり、最後は仲良く森の妖精シマエナガ風に座って一息。毎回楽しんでくれて本当に嬉しい限りです。



写真：森の妖精シマエナガ

年内に第4回目の環境学習を予定しています。実施することができれば、新春号でまた報告いたします。お楽しみに！

## 事業 2 課

### 京都府林業大学校 2 年生のキャップストーン研修受入れ

今年度も林業大学校の 2 年生が、去る 8 月 26 日～9 月 20 日までの約 1 ヶ月間キャップストーン研修として林業を学びに来てくれました。愛知県出身の杉村 響君です。

事前の打ち合わせで、チェーンソー作業を中心に間伐・造材・搬出の一連の流れの段取りなどを学びたいということだったので、搬出間伐現場や、作業道開設のための支障木伐採現場、皆伐現場などで職員と一緒に作業をしてもらいました。現場では、機械作業を止めない段取りの考え方や、機械作業の効率が落ちないような伐倒方向、作業道開設のための伐倒時の注意点、皆伐現場での木を倒す順番の考え方などを積極的に学んでくれていました。

特に、研修後半は皆伐現場に同行してもらっていましたが、府道の直ぐそばで交通量も多く府道に沿って電線も通っていたため、倒す方向を失敗すると大惨事という現場で、職員もかなりの緊張感を持って作業しており、それが杉村君にもひしひしと伝わっていたようです。

かなりの緊張感の中、何度も斜面を昇り降りしていたせいも、最終日の昼食の後に突如腰に痛みが **(グキッ!!)**、するとそのまま動けなくなってしまいました。



事務所の職員が緊急用の簡易担架を持って現地に急行し、現場の職員と担架に乗せてそのまま病院へ。診断結果はギックリ腰でした。大きな怪我はなく安心しましたが、ドキッとしました。林業現場の体験に来た学生に、救助の体験をさせてもらえるとは思ってもみませんでした。お互いに良い体験が出来ました(笑)。

後日、回復した杉村君が事務所に挨拶に来てくれ、10 月から別の事業体へ無事研修に行けるという事でした。

少し面白話にしてしまいましたが、本当に大事に至らなくて良かったです。

### 豪雨の被害はありませんか

11 月 2 日(土)に台風と前線の影響により、短時間でかなりの降水量に見舞われました。週が明けた 5 日(火)には「作業道の路面が掘れてしまったので補修してほしい」と組合員の方から連絡をいただいたり、見回りをしている職員から「斜面が少し崩れて道が通れなくなっています」などの報告が入っています。皆様の周辺でも被害などありましたら森林組合までご一報ください。まずは現状を確認させていただきます。

(文・小林)

## 椎茸栽培技術指導研修会に参加

職員の近藤君が、「森林組合椎茸栽培技術指導研修会 in 鳥取県」に参加して参りましたので、学んだ内容と今シーズンの椎茸原木販売についてお知らせします。

『国産椎茸は、安価な中国産に押され昭和 63 年に比べ約 17%まで減少してしまっています。生産者は中国産と価格競争をするのではなく、美味しさと品質（大きさなど）、国産という安心感で勝負するため日々努力されてきました。

原木に植菌する駒菌の生産は、菌の品質を落とさないよう温度や気圧などの管理を徹底されています。また、より味や形が良い椎茸をお客様に届けるべく、開発試験を繰り返し行われているとのことでした（右写真は駒菌の培養機械）。



駒菌を椎茸原木に植菌した後は、シカなどの被害に遭わないよう周囲にネットを張ったり、生えてきた椎茸 1 本 1 本にラップを掛けるなど、様々な対策を取られています。さらには、椎茸の乾燥や冬期の低温対策として、椎茸 1 本 1 本にジャンボドームと呼ばれる袋を被せ成長を促しておられるそうです（左下写真）。全て手作業で。



こうした努力をされていることを目の当たりにすると、スーパーで売られている国産原木椎茸の見る目が変わります。

そして、この研修で学ばせていただいた中で、椎茸原木をご購入いただく皆様に私が一番お伝えしたい事は、椎茸原木を保管しておく「ほだ場」と言われる場所についてです。生産者の「ほだ場」を実際に見ると、並べた原木に程よく日光が当たり、風通しが良いんですが乾燥し過ぎず、適度に湿った状態であるよう仕立てられていました。この「ほだ場」についても、かなり試行錯誤されてきたとのことでした。「ほだ場」の環境作りを徹底することが、皆様に立派な美味しい椎茸を食べていただける一番の近道ではないかと思っていました。ちなみに、研修で数年分の椎茸を食べましたので、私はしばらく食べませんが(笑)。



(ほだ場の様子)

今年も椎茸原木をご購入いただき、立派な椎茸を育ててみませんか！！

私、近藤が最適な「ほだ場」作りのアドバイスいたします！！

**椎茸用原木：1 本 900 円前後**      **椎茸菌入原木：1 本 1,300 円前後**

※価格は現時点で未確定ではありますが、ホームセンターよりは安い!!・・・はずです。

是非、皆様に美味しい椎茸を味わっていただきたいです！！』(近藤)

# 総務課

## 南丹・京丹波林業振興展について



(写真上下：吉田清彦様)



令和6年度「南丹・京丹波林業振興展・木材展示記念市」が10月18日に八木原木市場にて開催されました。日吉町森林組合から出材した木材の内、日吉町天若地区の湯浅正巳様の木材が南丹木材業組合長賞を、吉田清彦様の木材が南丹・京丹波林業振興展実行委員長賞をそれぞれ受賞されました。



(写真：受賞者の皆様)

## 土曜日営業の変更について

事務所や店舗にお知らせを張り出していますので、既にご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、10月より土曜日の営業について変更をさせていただいております。

以前より、毎週土曜日は事務所職員が交代で出勤をして営業しておりましたが、10月からは諸般の事情により3週に一回を休業日とさせていただくことといたしました。11月以降の営業日については以下の通りとなります。

11月：16日・30日      12月：14日・21日      R7年1月：18日・25日

上記の土曜日は8：30～17：00まで通常営業しております。

## 年末年始の営業日について

年末年始の営業日について下記の通りお知らせいたします。

**年末：12月26日(木)まで通常営業**

**年始：1月6日(月) 13時より営業**

# 木材市況

(資料提供・北桑木材センター R6.11.6)

スギ	中目	4m×18～24 cm	¥ 13,000～15,000	スギは元材・中目材共に引き合いが弱い ヒノキは 24 cm上の中目材・元材共に引き合いが強く少し高値となりました。
	〃	4m×24～30 cm	¥ 16,000～18,000	
	柱	3m×16～20 cm	¥ 13,000～15,000	
	〃	6m×16～20 cm	¥ 15,000～18,000	
	元木・良材	4m×24 cm上	¥ 25,000～30,000	
ヒノキ	中目	4m×18～24 cm	¥ 20,000～22,000	記念市後で入荷も減り、お客様も少なかったです。
	〃	4m×24～30 cm	¥ 24,000～26,000	
	柱	3m×16～20 cm	¥ 13,000～15,000	
	〃	6m×16～20 cm	¥ 18,000～30,000	
	土台	4m×14～16 cm	¥ 12,000～13,000	

## 編 集 者 の 独 り 言

私の妻が最近「学力喪失～認知科学による回復への道筋～（今井むつみ著）」という本を買いました。妻より先に私が読んでいたのですが、非常に興味深い内容で、小学生や中学生のお子様、お孫様がいらっしゃる方々にお勧めしたい本です。この本の最初に『学力は「学ぶ力」だ』とあり、また知識には「生きた知識」と「死んだ知識」があるともあり、この「生きた知識」を身に付けることが大切だと書かれていました。

ここ数年、林業界でも背中に背負って歩くだけで立木本数や立木の曲りの状態、樹高、地形が測れたり、携帯電話1つで面積測量や作業道の測量が出来たりする技術が飛躍的に進歩しました。私が組合に入った20年程前に比べると本当に便利な時代になったと実感しています。

その一方で、それら新しい技術に頼りすぎてしまい、本来持たなければいけない山を見る技術が、どんどん衰えていってしまうのではないかと危惧しています。一つとして同じ木や斜面がない自然を相手に、木を伐ったり斜面を削って道を付けたりしていますので、一歩間違えると災害を引き起こす原因となってしまいます。技術が進歩することは有難いですが、それに頼ってしまうのではなくしっかりと自分の目で見て考え、自然から学び取る力を養い「生きた知識」を引き続き身に付けていきたいと思えます。

編集者：小林

